

SUZUKA UNIVERSITY LIBRARY NEWS

2026 年度
10 月号



こんにちは！ 附属図書館です。



朝夕に少しずつ秋の気配を感じる季節となりました。秋と言えば『読書の秋』涼しく過ごしやすくなったこの時期に、いつもより少しゆっくり本を開いてみませんか？
図書館では秋の夜長に楽しめるさまざまな本を取り揃えています。ぜひお気に入りの1冊を見つけてください。



東野圭吾特集

あなたはこの結末を
見破れるか！

読むほどに深まる
東野圭吾の世界



季節の展示





—江藤先生展示—



〈場所〉

どこからが「別世界」なのか。

〈時間〉

異なる時間生きる物語は、私たちの生活をどう見直させるのか。

〈帰還〉

別世界を旅したあと、現実と同じように見えるだろうか。

扉の向こうへ

—日常とファンタジーの境界を超える—

本をひらくことは、境界を超えること

「扉」「庭」「時間」「異界」を手がかりに、日常とファンタジーのあいだに引かれた境界を、六つの場面をたどりながら何度もまたぐ。

絵本・児童文学から東西の古典、現代文学、研究書へ。

来館者が持ち帰るのは、この先へ進むためのブックリストと、ひとつの問いである。



— 文科省 おすすめ本 —

『一瞬の風になれ』

佐藤多佳子 著 / 講談社



あさい りょう

朝井 リョウさん
(小説家)



岐阜県生まれ。『桐島、部活やめるってよ』で第22回小説すばる新人賞を受賞しデビュー。『何者』で第148回直賞、『世界の地図の下書き』で第29回坪田譲治文学賞、『生欲』で第34回柴田錬三郎賞を受賞。



私自身が高校生のときに読み、今でも一等星のように輝いている小説です。陸上部に所属する少年少女の三年間が描かれています。読みながら「このまま一生読み終わりたいくない」と強く願うくらい登場人物全員のことが大好きになりましたし、読後は、物語を読むという行為自体をととても愛おしく感じました。

また、三冊に亘る長編小説を読み切るという経験は、何かをやりきったという一つの自信を授けてくれるはずです。ぜひ手に取ってみてください。



〈 メッセージ 〉

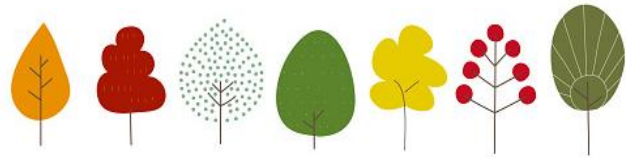
本を一冊読み終えるたび、世界を見つめる視点が一つ増えたように感じます。自分の人生だけでは出会えなかった感情や思想に本を通して触れることは、この世界やこの世界の一部分である自分、そして自分以外の他者を多面的に知ることであり、ひいては想像力という名の優しさを手に入れることだと思います。本の表紙は窓のようなものです。色んな窓を開けてそこに広がる景色を眺めてみてください。それだけで勝手に、あなただけが持つオリジナルの優しさが育っていくはずです。

『サラダ記念日』



倭万智 歌集 河出書房新社

こども教育学部 特任教授 / 伊東直人



歌集『サラダ記念日』の初版刊行は1987年。著者の倭万智さんは1962年生まれで、私とほぼ同世代。倭さんが短歌を始めるきっかけとなったのは、大学時代に受けた佐々木幸綱氏の講義でした。鈴鹿市石薬師出身で文化勲章受章者でもある佐々木信綱を祖父に持つ幸綱氏に、「私も短歌をつくってみたいんですが……」と手紙を送ったことから、すべてが始まります。

20歳の女子大生は、31音の世界で鮮烈な輝きを放ち始めます。24歳までに詠んだ作品をまとめた本書は、現在では280万部を超える大ベストセラーとなりました。

◇「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日(p.125)

◇「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたかさ (p.18)

教科書にも掲載されたこれらの歌からは、何気ない日常の愛おしい情景が等身大で鮮やかに浮かんできます。恋の只中にいる人だけでなく、過去の恋を振り返る人にも、飾らない言葉が心に響きます。

◇カニサラダのアスパラガスをよけていることも今夜の発見である(p.152)

(好きな人の好みを一つ知った、ささやかな喜びですね)

◇「嫁さんになれよ」だなんてカンチューハイ二本で言ってしまうといいの (P.32)

(言葉の軽さに呆れながらも、隠しきれない嬉しさがあふれています)

◇金曜の六時に君と会うために始まっている月曜の朝(p.150)

(大切な人との時間を楽しみに、平日を軽やかに乗り越えていく)

さらに、映画『男はつらいよ』第40作『寅次郎サラダ記念日』では、山田洋次監督とともに倭万智さんが原作に名を連ねています。劇中には原作の歌だけでなく、映画オリジナルの短歌やパロディも登場します。

◇寅さんが早稲田の杜にあらわれてやさしくなった午後の教室 (映画オリジナル)

◇寅さんが「この味いいね」と言ったから師走六日はサラダ記念日 (パロディ)
いつも風のように、寅さんは再び旅立っていきます。

◇旅立ってゆくのはいつも男にてカッコよすぎる背中見ている(p.116)

誰かの記憶に強く残るような、そんな「格好いい背中」を目指したくなります。

名作『サラダ記念日』、ついでに『寅次郎サラダ記念日』も、いかがですか。